

～確かな実績と圧倒的な行動力～

千葉県、『小児科医』偏在指標全国最下位

現状と課題

●**医師全体**：令和4年全国統計によると人口10万人あたりの医師数は全国平均の262.1人に対して、埼玉県180.2人、茨城県202人、**千葉県は209人と全国ワースト3位**。加えて、医師の働き方改革が本年4月から始まり、時間外・休日労働時間の上限規制が適用され、労働規制の強化に伴って、患者に対応できる医師がさらに不足し、地域医療への影響が懸念されている状況。

●**小児科医**：千葉県における医師不足でも特に深刻なのは小児科。専門性資格の「**小児科専門医**」に至っては**全国で千葉県が最も少ない状況**。医師の働き方改革と同時に医師の高齢化等により、診療窓口を縮小したり、閉院となるケースも増えてきており、もはや予防接種も受けることが難しくなるなど、学校医や保育園医の確保にも影響している自治体も。さらに令和5年に15歳未満人口当たりの医師数をベースに厚生労働省が発表した**小児科医の偏在指標**においては、**千葉県は全国平均の115.1を下回る93.6で全国最下位**。

水野質問 小児科医不足について県はどのように認識しているのか。小児科医不足の改善に向け、**県主体となった取り組みをすべきと考えるかどうか**。

副知事答弁 県内に就業する小児科医師数の増加を図るとともに、少子化の傾向も踏まえ、医療機関の役割分担と連携を促進し、**県全体として効果的な小児医療提供体制を構築していくことが重要と**考えている。

- 医師修学資金貸付制度等を活用して医師確保に努める
- 小児医療に対応できる医師を増やすため、地域の病院や診療所の内科医等を対象として小児救急に関する研修会を実施
- 昨年度から医療関係者や学識経験者等で構成される小児医療協議会を設置し、小児科医の不足や地域による偏在などの課題解決に向けた議論を進めている

限られた小児医療資源を効率的に活用するなど、小児医療提供体制の充実を図る方策について検討していく。

水野再質問 医師の絶対数が少ない中で小児科医療の充実を図っていくには、地域の実情を県が把握し、広域的な政策が必要不可欠である。我孫子市では千葉県内初の取り組みとして、小児を専門とする診療所を開設する医師等に対して、一部費用を補助する事業を今年度から始めた。神奈川県では、県民が安心して妊娠・出産・子育てができる環境整備のため、産科・小児医療施設を開設する事業者や県内で移転する事業者に対し、施設設備整備費用を補助しており、医師の地域間偏在や診療科による偏在解消に取り組んでいる。県として小児医療体制の現状を踏まえ、市町村を支援していくべきではないか。

保健医療担当部長答弁 市町村や医療関係者からの意見を伺って、**小児医療体制の更なる充実について検討していく**。

水野要望 救急車を呼ぶべきか迷ったときは、小児救急医療電話相談「**#8000**」の活用や相談できる「**かかりつけ医**」を見つけておくことなども、**全県的に周知を**。市町村の財政力によって医療体制が影響されることがないように、市町村の現場の声を聴きながら小児医療体制の充実に努めるよう強く要望する。

水野ゆうきプロフィール



- 1983年2月19日生。我孫子市生まれ・育ち・在住。我孫子市立第四小学校入学。
- 父の転勤により小学3年で米国LAへ移住。ロサンゼルス現地小学校卒業。ロサンゼルスインターナショナルスクール編入。
- 日本に帰国後は茨城県私立茗溪学園中学校編入、同校高校卒。
- 津田塾大学学芸学部国際関係学科卒業（2005年）／津田塾大学卒業生ロールモデル120人に選出。
- 民間企業に勤務後、2011年我孫子市議会議員選挙最年少当選（3,016票）。
- 2015年、2019年、2023年千葉県議会議員選挙3期連続当選（すべての選挙において無所属で当選）。現在、千葉県議会女性最年少議員。

水野ゆうきへのご意見・応援メッセージは公式ホームページまで

ホームページ 千葉県議会議員 水野ゆうき 公式ホームページ

ブログ 水野ゆうき オフィシャルブログ (水野ゆうきのゆう can change!)

Facebook 水野友貴

X @yuukitten

県を動かす我孫子市に!

討議資料

会派「**千葉県新政策議員団**」代表
千葉県議会議員 我孫子市選出

千葉県議会報告
ゆう Can Change!
vol.57

みずの 水野 ゆうき 無所属

6月定例千葉県議会にて会派「**千葉県新政策議員団**」を代表し、代表質問（合計39問・再質問8問）を行いました。

水野ゆうきの代表質問はYouTubeから視聴できます



手賀沼の自然環境を活かした地域活性化を!

水野質問 手賀沼は千葉県の重要な自然資源であり、私たちの生活や社会・経済活動はその自然資源によって支えられていることから、保全・管理と活用の両立を図っていくべきである。自然資源を活用した持続可能な地域づくりを進めるには、日常生活の生活感覚と行政政策の意思決定が合理的にかみあっていることが極めて重要であり、湖沼を実質的に管理する千葉県と手賀沼周辺自治体、周辺住民との意思疎通が大切である。熊谷知事は、手賀沼・印旛沼を活かした環境整備、賑わいづくりを国や市町村と連携しながら進めることを掲げている。手賀沼の自然環境を活かした地域活性化を図るべきだが、**県としてどう考えるのか**。

熊谷知事答弁 都心から一番近い天然湖沼である手賀沼の豊かな自然と水辺空間は地域住民の貴重な財産であり、周辺自治体による一体感ある取組の推進により、さらにその魅力が向上すると考えている。一昨年から、手賀沼周辺の多様な資源を有効活用して地域のブランディングを図るため、地域振興事務所と周辺3市が連携して検討を行い、**今年度は「農」を軸とした賑わいづくり**について、取り組みの具体化を図っていく。県としては、今後とも地元自治体と連携して**手賀沼が有する自然や文化・歴史を活かせるよう取り組み、地域の活性化**を図っていく。

手賀沼の不法係留船51隻確認

水野質問 船やボートの乗り捨て等は地元で度々問題視されており、我孫子市と千葉県で協議を重ね、必要に応じて撤去や指導を行っていただいているが、現在も相当数の不法係留船が見受けられ、容易に撤去することが難しく、対応に苦慮している状況。**不法係留船への対応状況はどうか**。

副知事答弁 令和4年8月に実施した不法係留実態調査で**51隻の不法係留船を確認**。このうち所有者が特定されているものは撤去指導を行っている。**所有者が未だ不明なものについては、県において所有者の特定や法に基づく撤去の検討などを進め、適切な環境維持に努めていく**。

水野要望 **51隻のうち1隻しか所有者が特定できていない**。不法係留船は所有者が不明な場合も多く、悪質な場合は船舶番号を消去し、所有者をたどれない状況になっている。本来であれば所有者が撤去すべきであるが、**昨今の自然災害等を鑑み、洪水などで住民に危険が及ぶ可能性がある不法係留船に関しては迅速な対応を**。

手賀沼ハクレン大量死原因究明を!

水野質問 昨年6月2日の台風2号の際、国土交通省利根川下流河川事務所が管理する手賀沼の北千葉第二機場にて大量のハクレンがへい死し、早急に知事に対応を要望し、所管する国土交通省関東地方整備局に対応要請していただいた。しかし、台風による一過性の事案ではなく、本年5月にもハクレンの大量死が手賀沼で広範囲にわたり発生。**大量死したハクレンの回収状況はどうか。また、その原因をどう考えているのか**。

副知事答弁 本年5月に大量のハクレンがへい死したことから、県と我孫子市において延べ5日間をかけて約3トンの死骸を回収し処分した。県では、手賀沼でのハクレンの大量死確認後、速やかに水の色や魚の種類等の状況を確認するとともに、現場で水質検査を実施し異常がないことを確認。

専門家への聞き取り等によると、**原因はハクレンの産卵期特有の行動による酸欠死と推定**されている。今後とも、現地の状況や水質測定結果を関係機関と共有するなど迅速な対応に努めていく。

